近畿大学臨床心理センター平成21年度活動報告

奥 野 洋 子

Ⅰ．はじめに

近畿大学臨床心理センター（以下「センター」と略す）は平成19年4月に開設され、3年目に入った。平成21年4月には大阪市中央区日本橋にある近畿大学会館内に、日本橋カウンセリングルーム（以下「カウンセリングルーム」と略す）を開いた。平成21年4月から平成22年3月までの12ヶ月間についての活動を報告する。

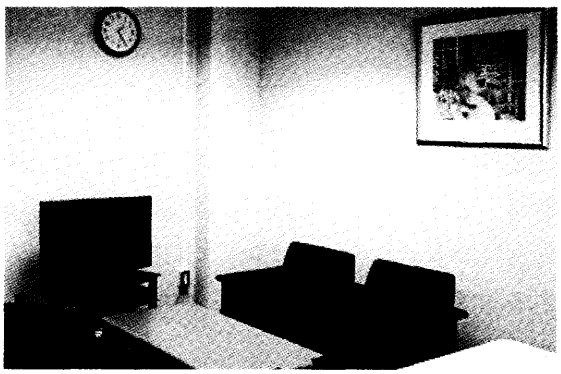
Ⅱ．センター紹介

1．施設について

センターは、近畿大学医学部キャンパス内（大阪府大阪狭山市）にあり、面接室3室（面談室、カウンセリング室1・2）、プレイルーム1室、待合スペース、受付、スタッフルームがある。

カウンセリングルームは、近畿大学会館2階にあり、面接室が1室とスタッフルームがある。近畿大学会館は、大阪市内の日本橋にあり、駅から徒歩3分という利便性の良い場所に位置している。

臨床心理センター（玄関）



日本橋カウンセリングルーム（面接室）

2．スタッフについて

平成21年度より相談員が1名増え、センター長、相談員（研究員）5人（専任2人、兼任1人、非常勤2人）、事務職員1人となった。センター長は精神科医師（精神保健指定医）であり、相談員は臨床心理士の資格を有している者が4人、国際応用スポーツ心理学会（AASP）認定コンサルタントの資格を有している者が1人である。

Ⅲ．相談活動状況

1．相談業務

センターの開室時間は火・水・木曜日の10時～17時、カウンセリングルームの開室時間は火・木曜日の9～12時であった。電話受付時間は火・水・木曜日の10時～16時であり、相談の種類と料金は、表1の通りである。

表1．相談の種類と料金

相談の種類	料　　金
初回面接（50～90分）	8,400円　（税込み）
個人面接（30分）	4,200円　（税込み）
個人面接（50分）	8,400円　（税込み）
親子面接（50分）	12,600円　（税込み）
心理検査（1種類につき）	4,200円　（税込み）

応じる相談内容として、子どもについての相談、自分自身の性格や行動にかかわる相談、職場・学校・家庭などでの人間関係の問題にかかわる相談、自分の生き方にかかわる相談、異文化コミュニケーションについての相談、スポーツ選手や指導者の心理面についての相談、家族相談としている。

2．電話受付

電話受付の月別の件数、電話受付の内容と対応を表2、表3に示した。

表2．月別電話受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話受付件数	13	6	13	7	2	6	9	3	12	6	15	13	105

表3．電話受付の内容と対応

内容／対応	相談の申し込み	問い合わせ	電話のみの相談	計	%
面接日の予約	64	0	0	64	61.0
電話での回答	4	30	4	38	36.1
他機関紹介	2	1	0	3	2.9
計	70	31	4	105	100.0
%	66.7	29.5	3.8	100.0	

電話受付の件数は平成20年度の78件より27件増加しており、年度の始まりと終わりの時期に件数が多く、時期によって件数の差が見られた。

電話をかけてきた人の内訳は、本人が50件（47.6%）、家族が36件（36.2%）、関係機関からが16件（15.2%）であった。家族の間柄をみると、うち8割が母親からの電話であり、ほとんどが母、祖母などの女性からであった。関係機関では、大半が医療機関の医師・看護師からであった。

電話受付の内容では、相談の申し込みが約6割を占め、そのうちの約9割が面接の予約に至り、他機関を紹介した電話が2件であった。相談の申し込みのための電話が多いのは、新規相談者の半数以上が紹介状を持っての来談であること（表9）も一因と考えられる。初回面接予約となった64件のうち、4件が来談せず、1件は初回面接が次年度になった。

3．新規の相談

新規の相談の月別件数、来談者の性別、来談者の年齢層、来談者の住所を表4、表5、表6、表7に示した。

表4．月別の面接回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規の相談件数	6	5	7	4	2	3	5	3	5	8	7	8	63

表5．来談者の性別

性別	件数	%
女	47	74.6
男	16	25.4
計	63	100.0

表6．来談者の年齢

年齢	件数	%
0～6歳	0	0.0
7～12歳	1	1.6
13～18歳	10	15.9
19～22歳	5	7.9
23～29歳	11	17.5
30～39歳	10	15.9
40～49歳	12	19.0
50～59歳	6	9.5
60歳～	8	12.7
計	63	100.0

表7．来談者の住所

住所	件数	%
堺市	19	30.2
南河内地域	16	25.4
大阪市	8	12.7
泉南地域	7	11.1
泉北地域	4	6.3
その他大阪府内	2	3.2
他府県	7	11.1
計	63	100.0

南河内地域：
松原市、羽曳野市、藤井寺市、太子町、河南町、千早赤阪村、富田林市、大阪狭山市、河内長野市
泉南地域：
岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町
泉北地域：
和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町

平成21年度の新規の相談件数は、平成20年度中に相談申し込みを受け付けた3件を含んだ63件であった。内、センターへの相談が57件、カウンセリングルームへの相談が6件であり、平成20年度の51件より12件増加した。新規の相談は4月～6月、1月～3月の年度の始まりと終わりの時期に多く、約6割であった。女性と男性の比率は1対3であり、平成20年度と同じ割合であった。

来談者の年齢層では、小学生から70歳代まで広範に渡っていた。中学・高校・大学生の年代が約2割、23～39歳の人が約3割、40歳以上の人が約4割と、平成20年度より上の年齢層の相談が多くなっていた。

来談者の住所では、センターのある大阪狭山市に隣接した、堺市、南河内地域が約5割で、大阪府南部の泉南・泉北地域を合わせると7割以上を占めていた。大阪市が8件と平成20年度より増えた。これはカウンセリングルームが大阪市内にできたことによると考えられる。また、他県からの相談も約1割を占め、遠方からの来談もあった。

次に、相談内容と年齢層を表8に示した。1件の相談でも複数項目が該当する場合が含まれているため、合計すると120件となった。

表8．相談内容と年齢層

相談内容＼年齢層	7～12歳	13～18歳	19～22歳	23～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	件数	%
子どもの相談	0	0	0	0	2	8	1	3	14	11.1
自分の性格や行動についての相談	1	7	5	11	9	6	6	7	52	43.3
人間関係の問題についての相談	0	7	3	8	5	4	4	6	37	30.8
生き方に関わる相談	0	0	3	2	1	0	2	2	10	8.3
異文化コミュニケーションの相談	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.8
スポーツに関わる相談	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.8
家族相談	0	0	0	0	1	0	2	2	5	4.2
計	1	15	11	21	19	18	15	20	120	100.0

「自分の性格や行動についての相談」が全体の約4割、「人間関係の問題についての相談」が全体の約3割と多数を占め、各年齢層でも同様の傾向であった。年齢層ごとで相談内容の割合を見ると、19～22歳、50～59歳で「生き方に関わる相談」が増え、40～49歳では「子どもの相談」が多くなっていた。相談内容ごとで年齢層の割合を見ると、「子どもの相談」は40～49歳が半数以上を占め、60歳以上が約2割、「自分の性格や行動についての相談」は23～29歳、30～39歳が約2割で他の年齢層がほぼ1割前後、「人間関係の問題についての相談」は23～29歳が約2割、13～18歳、60歳以上も2割近く、「家族相談」は50歳以上が8割を占めていた。

紹介状の有無、来談の経路を表9、表10に示した。

表9．紹介状の有無

内訳	件数	%
紹介状なし	27	42.9
紹介状あり	36	57.1
計	63	100.0

表10. 来談の経路

経路	件数	%
近畿大学医学部附属病院	30	47.6
その他の医療機関	5	7.9
企業のメンタルヘルス相談窓口	2	3.2
パンフレット・ホームページ	12	19.0
友人・知人	11	17.5
その他	3	4.8
計	63	100.0

紹介状がある場合が6割近くあり、その紹介元の内訳は25件が近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科からで、その他の医療機関からが11件であった。

来談の経路では、近畿大学医学部附属病院から聞いて、もしくは紹介されての来談が半分近くで、そのほとんどがメンタルヘルス科からであった。他の医療機関からだけでなく、企業のメンタルヘルス相談窓口から聞いての来談もあった。附属病院内に置いているパンフレットを見ての来談に加えて、センターのホームページを見ての来談も増えてきた。友人・知人からも、近畿大学の教職員、医師などの専門職の知り合いなど、センターのことを知っている人々から聞いて来談であった。その他は、地域のコミュニティ紙にセンターのことが掲載され、それを見て知っての来談であった。このようにホームページ、パンフレット等による広報活動でセンターの存在が徐々に知られてきていると考えられる。

新規相談の初回面接後の処遇と継続面接の形態を表11に示した。

表11. 初回面接後の処遇と継続面接の面接形態

内訳	件数
継続面接	58
個人面接	53
親子面接（合同）	1
親子面接（並行）	4
初回面接のみで終了	4
他機関へ紹介にて終了	1
計	63

初回面接後、継続面接となったのが約9割で、ほとんどが来談者本人だけの個人面接となった。初回面接のみで終わった相談、他機関へ紹介して終わった相談が平成20年度より若干増えていた。

4．面接回数と面接経過

月別の延べ面接回数、年度末の面接経過状況を表12、表13に示した。

表12. 月別の延べ面接回数

相談の種類＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個人面接（50）	26	21	20	32	18	24	19	17	15	22	22	30	266
個人面接（30）	8	6	6	5	3	3	4	6	6	9	10	16	82
親子面接*	4	6	9	10	0	2	0	0	4	2	0	0	37
心理検査	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3	8
計	38	34	35	47	22	29	23	23	25	35	33	49	393

*親子面接について、並行面接の場合1件につき面接回数は2回、合同面接の場合1件につき面接回数は1回と数えている。

表13. 年度末の面接経過状況

内訳	平成21年度の新規相談	平成20年度以前の新規相談	計	%
継続	40	25	65	60.7
終了	20	19	39	36.4
他機関へ紹介にて終了	3	0	3	2.8
計	63	44	107	100.0

新規の相談面接である初回面接を除いた延べ面接回数は393回で、平成20年度の339回より50回以上増加し、7月と3月が40回を超したのを最高に、月20、30回前後で推移していた。

平成21年度内に扱った相談ケースは、平成20年度以前から継続のケースと終了後に再度来談したケースを合わせた44件を含め、107ケースであった。その約6割が次年度に継続

となり、約4割が平成21年度中に終了となった。他機関へ紹介で終了となったケース以外にも、面接は継続であるが他機関に紹介したケースが3件、紹介状を作成しての紹介ではないが他機関の情報を提供したケースが2件あった。それらはすべて精神科・心療内科の医療機関であり、来談者の状態や希望に応じて、医療的なケアや精神医学的な精査を目的としていた。

5．ケースカンファレンス

毎月ケースカンファレンスとインテイクカンファレンスを定期的に行い、計10回開いた。参加者は、スタッフ6人、臨床心理士等の専門家3人で、延べ人数は49人であった。

Ⅳ．学内・地域への活動

1．学内コンサルテーション

人見センター長は、文芸学部、及び国際人文科学研究所（近畿大学コミュニティカレッジ)、メンタルヘルスアドバイザーを兼務している。奥野講師は、近畿大学医学部精神神経科学教室を兼務し、近畿大学附属豊岡中学校・高等学校でのスクールカウンセリングも行っている。榛木講師は、近畿大学医学部キャンパスの「教職員のメンタルヘルス相談室」を担当している。

2．研修講座

平成20年度と同様に、夏季教員研修講座「教員のためのカウンセリング講座」を8月3日（月）に近畿大学会館において開催した。開催にあたり、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、大阪狭山市教育委員会、河内長野市教育委員会、富田林市教育委員会、東大阪市教育委員会、八尾市教育委員会の後援使用の承諾を得ることができた。午前中は、榛木美恵子（近畿大学臨床心理センター相談員）による「親子関係の心理」、青野明子先生（大阪国際大学人間科学部准教授・近畿大学臨床心理センター相談員）による「こころが通うコミュニケーション技法」の講義を行い、午後は、午前中の講義内容についての質問、子どもや保護者などへの対応や職場の人間関係に関する日頃の疑問・相談に応じた。

対象は、小中学校の教員としたが、地域の公立小中学校教員、近畿大学グループ附属学校の教員、高等学校教員をはじめとした教育関係者等の参加が35人となった。

親子関係の心理について、カウンセリングの基礎となるコミュニケーションの問題についての知識・理解を深めることができた、児童・生徒への声かけや対応に役立つ具体的なカウンセリング技法がわかった、など好評を得ることができた。また、センターの存在及び活動内容を広報できた。

近畿大学臨床心理センター
平成 21 年度夏季教員研修講座のご案内

今年も、夏季教員研修講座として、小中学校の教員の皆様に向けての「教員のためのカウンセリング講座」を企画いたします。
午前に、親子関係について、およびコミュニケーションの方法についての講義をいたします。午後は、午前の内容についての質問や日頃の教育現場での疑問・相談に応じる時間にしております。
カウンセリングやコミュニケーションについてご関心のある方、児童・生徒、保護者、同僚とのコミュニケーションにお困りの方、どうぞご参加ください。なお、会場の都合により、参加人数を限らせていただきますので、お早目のお申込みをお願いします。

近畿大学臨床心理センター長　人見一彦

教員のためのカウンセリング講座

後援：大阪府教育委員会　大阪市教育委員会　大阪狭山市教育委員会
河内長野市教育委員会　富田林市教育委員会　東大阪市教育委員会
八尾市教育委員会　（申請中）

日　時　平成 21 年 8 月 3 日(月) 10 時～15 時(受付開始 9:30)

会　場　近畿大学会館　多目的ホール
住所：大阪市中央区日本橋 1-8-17　電話：06-6213-0501
交通：近鉄・地下鉄千日前線・地下鉄堺筋線　日本橋駅より徒歩 3 分
駐車場はありません。近鉄・地下鉄をご利用ください。

対　象　小・中学校教員、支援学校教員（定員80人程度）

参加費　無料（事前申し込みが必要）

申込方法　7 月 25 日(土)までに、申し込み用紙にご記入の上ファックスで送信してください。メールでお申し込み場合は、申し込み用紙の内容を明記してください。申し込み用紙は、ホームページからダウンロードもできます。
申し込みの人数が多い場合はお断りすることがございます。

ファックス：072-368-1340
メールアドレス：ccp@med.kindai.ac.jp
ホームページ：http://www.kindai.ac.jp/sangaku/center/psychology/

お申込みいただいた皆様の個人情報は、近畿大学臨床心理センター「夏季教員研修講座」に関連する業務のみに使用いたします。他の目的には一切利用することはありません。

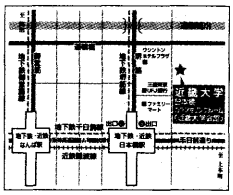
プログラム

◆ カウンセリング講座①（午前 60 分）
「親子関係の心理」
講師：榛木美恵子（近畿大学臨床心理センター専門相談員）
永年にわたり、臨床心理士として、学生相談・親子カウンセリングに従事してきた経験より、現代の親子関係について解説します。

◆ カウンセリング講座②（午前 60 分）
「こころが通うコミュニケーション技法」
講師：青野明子（近畿大学臨床心理センター専門相談員・大阪国際大学人間科学部准教授）
カウンセリング理論に基づいたコミュニケーション技法のなかには、広く日常の対人関係のなかで活用できるものもあります。子ども、保護者、同僚との気持ちのやり取りに役立つコツを紹介し、具体的な例を用いてわかりやすく解説します。

◆ 質疑応答（午後 90 分）
臨床心理センター専門相談員（奥野洋子、榛木美恵子、直井愛里、青野明子、山口直子）が、午前中の講義内容についての質問、子どもや保護者などへの対応や職場の人間関係に関する日頃の疑問・相談に応じます。

～ 会場のご案内 ～
近畿大学会館　多目的ホール
住所：大阪市中央区日本橋 1-8-17
電話：06-6213-0501
交通：近鉄・地下鉄千日前線・地下鉄堺筋線
日本橋駅より徒歩 3 分
＊駐車場はありません。近鉄・地下鉄をご利用ください。



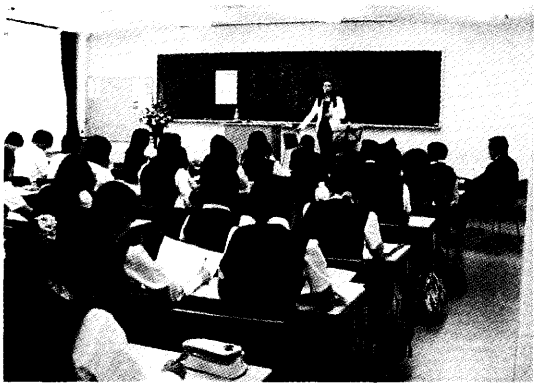
近畿大学臨床心理センター
〒589-8511 大阪狭山市大野東 377-2
TEL 072-366-0221 内線 3288
FAX 072-368-1340

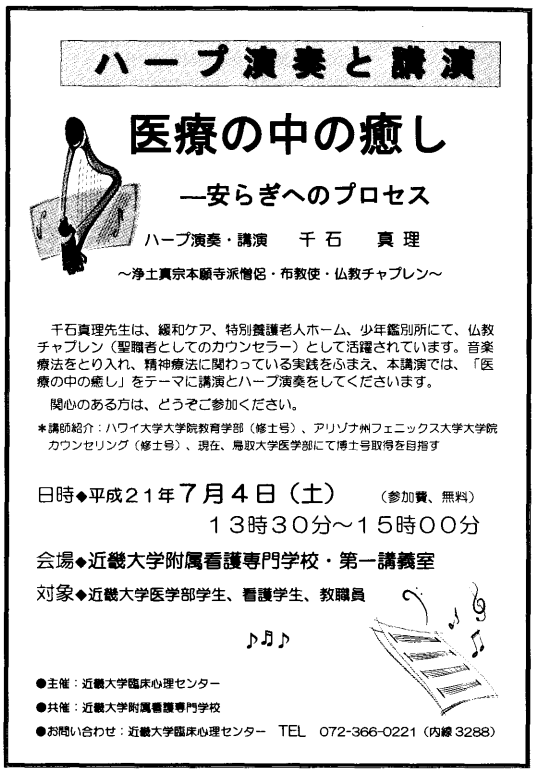
3．ハープ演奏と講演

緩和ケア、特別養護老人ホーム、少年鑑別所にて、仏教チャプレン（聖職者としてのカウンセラー）として活躍されている千石真理先生をお招きして、ハープ演奏と講演会を 7 月 4 日に開催した。千石先生は、音楽療法をとり入れ、精神療法に関わっておられ、その実践をふまえ、「医療の中の癒し」をテーマに、ハープ演奏を交えて講演をしていただいた。

近畿大学附属看護専門学校と共催し、近畿大学医学部学生、看護学生、教職員を対象とし

て、近畿大学附属看護専門学校にて講演会を開催した。130人の参加者があり、チャプレンの存在を初めて知った、生きること・死ぬことについて考えさせられた、患者・家族へのケアに生かしたい、ハープの音色・歌声に感動した、など好評を得た。





ハープ演奏と講演

医療の中の癒し

—安らぎへのプロセス

ハープ演奏・講演　千石　真理

～浄土真宗本願寺派僧侶・布教使・仏教チャプレン～

千石真理先生は、緩和ケア、特別養護老人ホーム、少年鑑別所にて、仏教チャプレン（聖職者としてのカウンセラー）として活躍されています。音楽療法をとり入れ、精神療法に関わっている実践をふまえ、本講演では、「医療の中の癒し」をテーマに講演とハープ演奏をしてくださいます。

関心のある方は、どうぞご参加ください。

＊講師紹介：ハワイ大学大学院教育学部（修士号）、アリゾナ州フェニックス大学大学院カウンセリング（修士号）、現在、鳥取大学医学部にて博士号取得を目指す

日時◆平成21年7月4日（土）　（参加費、無料）
13時30分～15時00分

会場◆近畿大学附属看護専門学校・第一講義室

対象◆近畿大学医学部学生、看護学生、教職員

♪♫♪

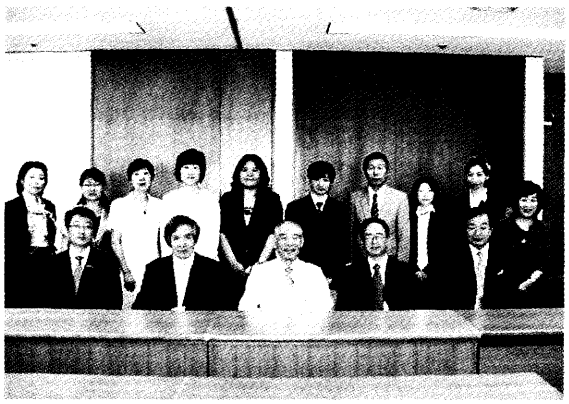
●主催：近畿大学臨床心理センター

●共催：近畿大学附属看護専門学校

●お問い合わせ：近畿大学臨床心理センター　TEL　072-366-0221（内線3288）

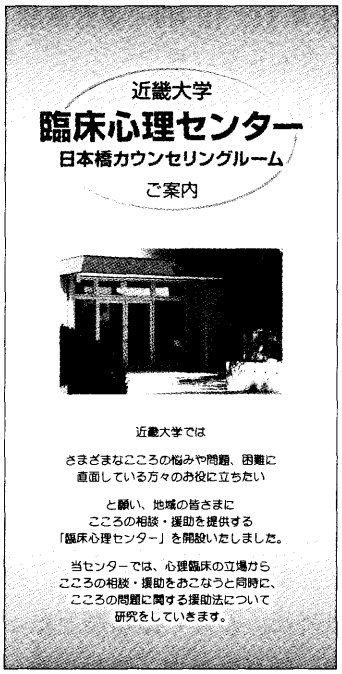
4．中国との交流

6月19日、北京の中国内観医学代表団一行がセンターを訪れ、内観医学向上で協力することを約束した。塩﨑医学部学部長、人見センター長、他スタッフと学術交流を行なった後、センター施設、近畿大学医学部附属病院・高度先端医療総合医療センター（PET診断部門）を見学した。



5．広報活動

附属病院インフォメーション、相談員が関わった研修会・講演会などにおいて、センターのパンフレットを配置・配布した。年度の初めには、カウンセリングルームの開設に伴い、パンフレットとホームページ（URL：http://www.kindai.ac.jp/sangaku/center/psychology/）を改定し、近隣医療機関、学校教育機関等の関係諸機関にパンフレットを送付した。平成21年度も日本臨床心理士会の『臨床心理士に出会うには（URL：http://www.jsccp.jp/near/）』への掲載を継続した。



6．講師等の依頼

- 近畿大学大阪コミュニティカレッジ・講義「カウンセリングのための精神医学講座」（平成21年4月～10月）：人見センター長
- 近畿大学医学部附属病院がんセンター第10回ともに生きる会・講演「がんとこころのケア」（平成21年5月）：奥野講師
- 近畿大学附属豊岡中学校・高等学校スクールカウンセリング・カウンセラー（5，7，9，11，1，3月　のべ11日）：奥野講師
- 近畿大学附属豊岡中学校・高等学校教員研修会・講演「カウンセリングとスクールカウンセリング」（5、10月）：奥野講師
- 第32回日本内観学会・特別事例シンポジウムコメンテーター（平成21年6月）：人

見センター長

- 奈良医科大学・講義「精神病理と精神療法」(平成21年7月):人見センター長
- 平成21年度日本私立大学協会「学生生活指導主務者研修会」・講演「キャンパス精神医学ーメンタルヘルスの基礎知識」(平成21年7月):人見センター長
- 大阪市立大学大学院・集中講義「スクールカウンセリング特論」:(平成20年8月)人見センター長
- 近畿大学教育懇談会2009・教育講演「大学生のメンタルヘルス」(平成21年9月):人見センター長
- 近畿大学医学部・講義「心理検査」「医療心理学」(平成21年11、12月):奥野講師
- 近畿大学医学部・講義「精神療法」(平成21年12月):人見センター長
- 近畿大学医学部附属病院看護部新人研修会・講義「ストレスとうまく付き合うには」(平成22年3月):奥野講師

V. おわりに

今年度は、新たに近畿会館に日本橋カウンセリングルームが開設され、それに伴って相談員も増えた。電話件数、新規の相談件数、面接回数も平成20年度よりも増加しており、近畿大学医学部附属病院内のパンフレット配置、医療機関・教育機関へのパンフレット送付、ホームページ等の広報活動、夏に開催している研修講座などにより、徐々にセンターの存在や活動が認知されてきているあらわれと言える。大学の医学部附属病院に隣接しているという立地条件もあり、附属病院のメンタルヘルス科からの紹介が大多数を占めていることもあり、来談者の年齢は幅広く、相談内容も多岐にわたっている。不登校などの適応の問題、対人関係のトラブル、うつ病などの精神疾患、子どもの相談など以外に、がん・難病など様々な身体疾患を抱えながら生きていくことについての相談、うつ病、統合失調症、認知症などの精神疾患の家族を抱えていることについての相談なども散見する。これらの相談に対応できるよう、心理学のみならず、精神医学を初めとした医学全般や社会福祉の制度といった、幅広い知識を身につけ、心理的理解を深めていきたいと思う。